

行仙岳⇄持経宿の巡視と平治宿の整備作業

◇実施日 3月30日(日) 晴

◇参加者

行仙岳↓持経宿 梶野照雄、由井洋三、藤原裕一郎

持経宿↓行仙岳 阪口雄二、杉山忠、葛敷忠

平治宿整備 沖崎吉信、松本吉殖、乾克己、児嶋道夫、村

吉光夫、畑林秀味・清子、大江加予子・徳子、

生熊千満子、高階美根子 17名

今回のコースも参加者限定で実施予定だったが、松本君から平治宿トイレ棟の屋根工事の申し出があり、村吉さんもトイレ排水工事を実施したいとの要望。また児嶋、乾さんからは外れたトイレのドアを探して取り付ける、とありがたい申し出があり、平治宿での作業を行うことにした。

今日、阪口君の紹介で葛敷君が初参加された。今後もお手伝いしたいとの話があり、頼もしい限りである。

朝8時半少し前、全員が村役場駐車場に集まり沖崎より本日の組み分けや作業予定などを伝えて出発。行仙岳↓持経宿班を見送り、残りの14名が持経宿に向かう。今日は下北山スポーツ公園の桜まつりの日で池峰や池原の桜はほぼ満開になっている。

池郷林道は村吉さんが今月だけでも2度往復され、整備もしてくれているが、気温が上昇するこの時期は落石も多い。何とか持経宿に

到着し即出発準備。大江加予子さんと畑林清子さんが小屋、お堂、千年桜を清掃してから平治宿に行くことでお二人を残し資材や道具を手分けして持ち平治宿に向かった。行仙岳に向かう3名には先行していただいた。



スポーツ公園の桜

池原大橋と桜

池峰公園の桜

平治宿の整備作業

松本、畑林秀の2名は前回やり残したトイレ棟屋根の仕上げ工事。児嶋、乾の2名は徳子ちゃんが東側斜面の10m程下方で発見したトイレドアを回収し、取り付け作業を行う。

村吉、沖崎がトイレの汚物、汚水処理の排水路変更の為の穴掘りなどを担当。

大江徳、生熊、高階の女性3名が小屋内の整理・清掃と外壁磨きなどをそれぞれ分担して行った。

平治宿到着後から昼食をはさみ、各々の作業を続けた。懸案だった事項もかなり捗った。



平治宿で作業中



トイレドア取り付け



中又尾根分岐

午後1時半過ぎに行仙岳からの3人も無事到着し、午後2時前に持経宿に向けて出発した。池郷林道で2回落石を取り除いて村役場駐車場に戻ったのが午後4時で、行仙岳から降りた3人は1時間前に到着していた。最後に皆さんにお礼を申し上げ、帰路に着いた。

(記：沖崎)

行仙岳↓持経宿

午前9時前、行仙岳登山口に到着。車が2台停まっていた。階段をゆっくり登る。途中で細い倒木があり、由井さんに鋸を渡して切除をお願いする。ちょうど1時間で行仙岳の捲き道分岐に着いた。一応山頂を踏んで平治宿に向かう。行仙岳北側の階段は霜柱で浮き上がり、あちこちで補修が必要な状態だった。怒田宿水場に降りる道は踏み跡がしっかり残っており、複数の人が水場へ降りているようだ。怒田宿から10分ほど北上したところで、10年ほど前

に倒れた大きな木が道を塞いでいる。以前は下を潜って通ることができたが、踏み跡は先端の空間を通って伸びている。別の木に引っかかっているものが徐々に下がってきているようだ。



行仙岳登山口



下がっている倒木



行仙岳に到着



支障木を切除



階段は痛んでいる



逆峰班と合流

午前11時半に阪口君から「俱利伽羅岳に着いた」と連絡があり、まだ30分ほどかかるので、先にお昼ご飯を食べてと返事をした。ちょうど12時に俱利伽羅岳に着いた。西風が強いので尾根の東側に座って昼食を摂る。12時半にそれぞれが北上、南下を開始。阪口君から「倒木を一本残してあります」と伝えられたので、探しながら下る。



倒木を切除



持経宿に着く



本日の参加者

10分ほど北で直径10cm程度の枯れた杉を発見し、2カ所を切つて排除した。その後はチェーンソーを使うことは無かった。転法輪岳から平治宿へ下ると人影が見えたので、藤原君に法螺を吹いてもらった。

平治宿に着いて暖かいコーヒーを頂き、みんなと一緒に持経宿に向かう。1時間ほどで持経宿に着き全員で池原へ下った。(記・梶野)

行動タイム

08:30 村役場駐車→08:50 行仙岳登山口 8:55→09:55 行仙岳巻道分岐→10:03 行仙岳→10:24 怒田宿跡→12:01 俱利伽羅岳・昼食 12:30→13:12 転法輪岳→13:33 平治宿 13:50→14:53 持経宿→16:01 村役場駐車

持経宿↓行仙岳

持経宿からの3名は午前9時55分に出発、後を平治宿まで行く松本さんが続く、この道は今までに何度か歩いた道で、身体が自然と歩く勝手を覚えていっているものである。先頭を行く杉山行者の軽い足取りに今のところは何とかついて行くことが出来ている。私のすぐ後を葛藪氏が歩く。千年檜の登りで平治宿に向かう畑林さんに追いついた。腰に工用ロープの束をぶら下げ、手には大きな塩ビの土管のようなものを持って歩いている。松本さんから託された新宮山彦ぐるーぷとプリントされた赤いリュックに入った重い工具は杉山行者が持つてくれたおかげで、治まりかけている腰の痛みは多少救われた。感謝である。私は左手に怒田宿の水場への案内板(児嶋氏作)と沖崎さんに託された鉄筋を携えている。今日の寒さは昨日までの暖かさが嘘みたいだ。やはり想像していた通り稜線の風の通るところは、頬に当たる風が冷たい。恐らく体感温度は氷点下だろう。両股分岐に着いた。村吉さんが設置してくれた立派な若葉色のベンチ二つが目につき腰を下ろしたくなったが、ここはぐっと堪えて先達について歩を進めた。ブナやミズナラの木の梢は落葉が落ち芽吹き前で、まだ蕭条としている。平治宿に10時37分に到着、前のテーブルに各自持参した鉄筋や工具を置いて一服する。10時

45分出發、ここからは3人とも逆峰の歩きは初めてである。先頭は葛藪氏が勤める。転法輪岳までは30分ほどの登りである。たまたに強風で折れた枯れ枝が道を塞いでいるが一人で充分除けられる程の枝である。葛藪氏が枝を除けていく。転法輪岳には11時07分着。山頂から遠く池原ダムの湖面が白く光っているのが見えた。ここでは杉山行者導師で勤行を行って、すぐに下りにかかった。まもなく夫婦と思われる男性が先頭で後続女性の60代位の一行と出会った。白谷トンネルの行仙岳登山口に車を駐車して歩いてきたようである。道は迷うことは殆ど無い。要所、要所に赤テープだったり白テープであったり目印がある。左側は檜と杉林の人工林である、尾根はシャクナゲの中を暫く歩くと大きな岩で遮られ道は右へとついでいて大きな岩と岩の間に導かれる、そこは尾根から小さなルンゼのガレ場となっていて、鎖が垂れ下がっている。登り始めるとガレ場は霜柱で凍っているので後続に落石の心配はない。鎖は一本の木に一重に巻き付けられて、シャクルは2か所あった。先日の地藏岳で児嶋さんから教わった要領でシャクルの緩みをチェックした。緩みは無かった。軸は錆びてはいたがそれほど傷んでいないようではなかったので暫く持ちそうである。俱利伽羅岳には11時半過ぎに到着した。勤行を済ませ梶野隊の現在の位置を確かめるべく通信を試みた。梶野隊からは「今、俱利伽羅岳の登りに掛ったところだから先に食事をしていくれ」との応答があり、私達は昼食をとる場所を探す。頂は北西風が冷たく陽も差していないので風の当たらない頂の南側斜面に降りて、そこで食事をすることにした。ここは風があるときは風を遮ってくれるのでいい場所である。ほぼ食事を済ませ談笑していると藤原行者が法螺貝を首に携えヒ

ョッコリ現れた。ほどなく梶野さんと箕面市から参加している由井さんも現れた。彼らも私達がいる場所に腰を下ろし昼食にかかった。彼らの食事の終わるのを待って藤原行者の本尊法螺に送られ12時30分に下り始めた。俱利伽羅岳の下りは急で結構長い、後ろで「順峰の方がえらいな」と杉山行者がつぶやく。私も同感の相槌を打つ。かつて覆い繁っていたという篠竹は見当たらない。道は深い落ち葉に覆われ、勢いのついた身体はストック一本では止まらない。片腕を木に巻き付けてやっと止まる。その繰り返して坂を下りきる。見上げると目の前には大きく行仙岳が立ちはだかっている。暫くは長いダラダラ坂のシャクナゲの中を登ってゆく。登り切ったところの馬酔木が少し邪魔かなと思ったがハサミを持ってこなかったのパスして下り、怒田の水場の手前で大きな枯れた樺の木の倒木が道を塞いでいる。大きなチェーンソーがないと取り除けそうもない。かなりの巨木である。私はその木の下を潜り抜けた。作業をするならここに来る。近道は白谷林道から水場に登りここへ来るのがベターか？と考えながら歩いていると、ほどなく怒田水場分岐に着いた。ここで児嶋さんに託された案内板を水場と書かれた案内板の横に差し込んでみたが雪解けで緩んだ土にはいくらでも深く入ってしまう。何度か場所を変え差し込んで変え、結局、怒田宿跡寄りの以前立てた案内板の横に落ち着いた。怒田宿跡で勤行をして行仙岳の登りにかかった。階段の変形したところが何か所があるが、この急な登りの階段は助かる。私は体が重く喘ぎながら先頭について行く。分岐の十津川の石柱は相変わらず傾いている。そうこうしているうちに行仙岳に着いた。これで下山出来ると思うとやれやれである。この頂からははつきりと釈迦が岳や弥山、八経ヶ岳方面の山

座同定ができる。その方面は雪でまだ白く覆われたところがある。一服した後、白谷林道登山口に向け下山にかかる。先頭の葛藪氏が「この鉄筋どうにかならんかい」と私に言った。私も以前から行仙宿からの下りでも鉄筋に足を取られて懲りているので同感の相槌を打つ。この辺りの鉄筋は錆びて枯れ葉にとけ込んでいたので、判別がつきにくい。それは迂回路の分岐からの下りでは増々酷くなつた。鉄階段の上に乗った小石や杉の落ち葉に注意しながら降りる。この階段も頂の鉄塔や反射板の作業の為に設置したのだろうか、この下りは人工物が過剰すぎるように思える。取り除けるものなら少し取り除いてもらいたいと思う。登山口に着いた。いざ、車を運転しようと思つて靴を見たらビムラム底の登山靴ではないか。朝の役場に集合した時に梶野さんの車に、履いてきたサンダルを乗せておけば良かったと悔やんだ。これでは運転が出来る筈がない。葛藪氏が快く運転を承諾してくれたのでお願いした。役場には3時間前に着いた。沖崎さんが4時間には全員集合できるだろうと言つていたので4時には全員揃うだろう。ほぼ4時に全員無事に集合して解散となった。追記；奥駆道の平治宿から怒田宿間の案内板は文字のペンキがはがれ支柱や板もだいぶ朽ちていた。私はガラ携帯で写真は撮つてない。梶野さんが写真を撮つてくれているので助かりました。

(記；阪口)

行動タイム

持経宿 09：55→09：58 持経千年檜→10：25 中又尾根分岐→10：37 平治宿 10：45→11：07 転法輪岳 11：11→11：36 俱利伽羅岳（順

峰隊と合流 12：30→13：30 怒田の水場分岐→13：33 怒田宿跡→14：00 行仙岳 14：05→14：34 行仙岳登山口→14：55 役場駐車場